



## 感動の再会

～私を取り上げてくれた助産師さん～

とても感動的な出会いがありました。それは市内で行われた敬老の集いでのこと。参加されているお年寄りの中でも最も高齢と思われる女性が私のところへやって来て「私があなを取り上げたのよ」と。なんと！58年前に助産師（当時はお産婆さん）として私を取り上げてくれた人だったのです。自分はこの人の手の中で産声をあげたんだな…と。96才になると言う和田さん、いつまでもお元気でいて欲しいと本当にそう思いました。



## 地場産ワインでまちづくり 相模原のワイナリーへ

ワインの生産量日本一の都道府県は神奈川県！て、皆さんご存じでしたか？それはメルシャンの大規模工場が藤沢市にあるためなのですが、その一方で国の特区制度を活用して、小さなワイナリーを立ち上げた人もいます。

相模原市内でブドウを栽培し、このほど完成したワイナリーで醸造、そして瓶詰をして販売までを手掛ける「Kentoku Winery」を訪ねて来ました。写真はオーナーの森山さんと。小さなワイナリーですが、夢は大きい。ここでしか味わえない地場産の一本。私の地元海老名でも近年では耕作が放棄されている農地が増えています。新しい農業の在り方について大いに考え、夢を感じさせて頂けるひと時でした。



この度、おさだ進治県議会議員のご厚意により合同で開催させて頂く運びとなった新春の集い。一人でも多くの方のご参加をお待ち申し上げます。どうぞ宜しくお願い致します。

迎える令和6年は、海老名の皆様に「よしいえひろゆき」を、より深く知って頂く1年にしたい、そう強く、強く、願っております。

早いもので、衆議院選挙区割りの改定により、長く甘利明先生と共にあった海老名市の地盤を、自民党神奈川県第16区支部長として引き継がせて頂いてから1年余りの時が経過いたしました。この間、県議会議員選挙・市長選挙・市議会議員選挙を皆様と一緒に「当事者」として戦わせて頂き、また、ご指導を賜りながら各種イベントにもこまめに足を運び、丁寧に地元の皆様との絆を紡いでまいりました。しかし、まだ「自己紹介」が終わったばかり。

「えびなの皆様と、ともに。」

特別寄稿  
衆議院議員 よしいえ ひろゆき



## 部活動の地域移行



「教員の働き方改革を進める」「少子化で生徒数が減少する中でも生徒のスポーツや文化活動に取り組む部活動を守る」そうした目的から文部科学省は部活動の「地域移行」を進めようとしています。

最も子供が多かった時代に比べると生徒数が半分程度まで減少してしまった今、従来通りのやり方では子どもたちにスポーツや文化活動の場を提供することができなくなっています。また、学校の先生たちも、課外活動である部活動の顧問を任せられ、土日も休みなく生徒の指導

をするといった職場環境では、肝心の授業や生徒指導に十分な時間を充てられないといった問題もあります。

だから部活動を地域のスポーツクラブや、県、市町村のスポーツ協会などに担ってもらおう…言うのは簡単な事ですが、実際にやるという事になれば、誰が子どもたちの指導をするの？ケガをしたら誰が責任を負うの？体育館やグラウンドは？複数の学校の生徒でチームを組んだときに大会へは出られるの？などなど問題は山ほどあります。

## 福岡大学が進める先進事例を視察

県議会で私が所属する「共生社会推進特別委員会」はこの問題に取り組んでいます。その取り組みの中で、福岡県で先進的な取り組みをしている福岡大学を視察して参りました。

この大学では「FU スポまちコンソーシアム」という組織を作り、大学は学内にある豊富なスポーツ施設を福岡市内の生徒に開放し、大学生が生徒の指導を行います。例えばサッカーなら大学サッカー部の選手が指導をするということ。そしてそのための費用を捻出するために企業にも参画してもらおう、といった取り組みを実践しています。



神奈川県内にも多くの大学があり、こうした事例は大変参考になると感じています。また海老名市で言えば、企業の中にグラウンドや体育館があるものの、あまり活用されていないものもあり、こうした地域資源を活かして行く方策も大切であると思います。

市内の中学から剣道部が無くなってしまった。野球やサッカーなどの人気スポーツでも一校でチームが組めない。ブラスバンドも…といった問題は県内全ての市町村で発生していると思われます。大変な取り組みですが、部活動の地域移行はチャレンジして行くしかない、課題です。



おさだ進治公式ホームページ  
<https://osadashinji.com>



おさだ進治 Facebook  
<https://www.facebook.com/shinji.osada.3>

# 愛名やまゆり園で虐待事件

「これでもやるか…」と、途方に暮れてしまうような事件が発生してしまいました。県立の知的障がい者施設愛名やまゆり園で職員が利用者を押し倒し、骨折させて逮捕されるという事件。あの凄惨を極めた津久井やまゆりの事件と、その後、明らみに出て来た県立障がい者施設内での虐待事案を心から反省し、出直そうと県全体で必死の努力をしている中の出来事に、県職員はもとより施設の利用者やその家族など関係する人々は「どうして？なぜ？またしても…」と、途方に暮れてしまう出来事です。

まずはケガをされた方の回復を祈ります。そして、事件後県では特別監査を実施し、事件の経緯を精査すると共に再発防止に取り組み始めています。これ

までの調査では、虐待を行なった職員は「忙しい業務の最中に怪我をされた利用者から何度も話しかけられ、イラっとして押し倒してしまった」と話しているということ。支援する人も受ける人も人間ですから、イライラしてしまう事もあるかも知れません。それでも虐待のようなことにはつながらない支援体制というものを、改めて考え、現場で実践していくことが県の仕事です。正直言って私も「なぜ？」と、無力感に苛まれる出来事でしたが、福祉の取り組みはここまでやれば良いという終わりの無いものと覚悟を決めて、何があってもひるまず、たゆまず、前進して行くしか無いことを、県議会の場で職員の皆さんに求めたいと思います。

# ベトナムへの企業進出を後押し

神奈川県内の経済を力強く前進させるために、県内企業の海外進出を進め、その利益を県民に還元して頂くことは重要な政策課題です。これまで県内の多くの企業は労働力や原材料が安く手に入る中国へ進出していましたが、最近では人件費が日本国内とあまり変わらなくなって来ている実情があります。また、行政上の手続きに時間がかかるとか、大切な特許や技術を盗まれてしまうといった、いわゆる「チャイナリスク」と呼ばれる出来事が起きており、こうしたことから日本の企業が隣国のベトナムへ移動する動きが高まっています。

そこで県は、横浜やベトナムのハノイで「ベトナムフェスタ」を開催して人々との交流を深めると共に、ベトナム国内の工業団地と契約を結んで、県内企業の進出を後押ししています。一方県内に目を向けても、現在県内で生活している外国人の中でベトナム

人の数は中国人に続いて2番目となっており、日本と同国の良好な関係を構築することは神奈川県にとっても大切な課題となっています。

写真はこの度ベトナムに新工場を開設した株式会社シンメイ（横浜市緑区）を視察した際のもの。食品の包材などを作る会社で、現在中国にある工場もベトナムに移転することを考えているとのこと。同社の湯川社長のお話では「中国に比べてベトナムははるかに進出しやすい環境があり、従業員もとてもまじめに働いてくれます」とのことでした。



# 海老名市長・市議選挙

去る11月12日(日)、海老名市では市長、市議会議員の選挙が行われました。市長選においては現職の内野候補が県内の現職首長の中では最多となる6選を果たし、内野氏自身がスローガンに掲げる「継続と発展」の通り、豊富な経験や人脈を活かして更に海老名市を発展させて頂けるものと思います。また、市議選においては、22名の定員に対して33名が立候補するという海老名市政の歴史に無い激選となりました。結果、10名の新人候補が当選し、市長とは対照的に議会は「刷新」のイメージが強い布陣となりました。

これからも神奈川県と海老名市がしっかりと連携をとって県も市も良くなる政治を実現してまいりたいと思います。



各地で応援演説をしました

# 県内商工会議所青年部の皆さんと激論

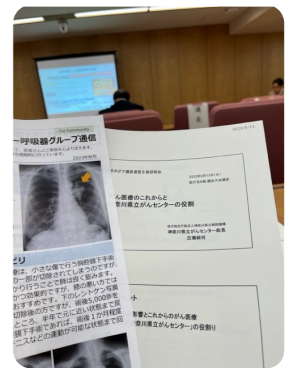
神奈川県内に13の商工会議所があります。その商工会議所の若手メンバーによって結成されているのが「商工会議所青年部」通称 YEG。今年その青年経済人のトップを務めているのは海老名の日高淳也さん。そんなご縁もあり、去る10月31日、横浜の地に県下の YEG メンバーが集まり、県議会議員との意見交換会が実施されました。

現在話題となっているタクシー不足を解消するためのライドシェアのことや、人件費の高騰などについて、厳しいご意見が続出。我々県議会議員も自民党から選りすぐりの論客が参加しましたが、議論はとても熱いものとなりました。来年以降もこの対話は続けて行こうと、地元の日高さんと私の意見は一致しています。



# 神奈川のがん治療について

神奈川県議会がん撲滅推進議員連盟という組織があり、私はその役員を務めています。連盟ではこのほど、県立がんセンターの古瀬総長を招いて、現在神奈川県が進めるがん治療の実情について学びの場を設けました。フル稼働する重粒子線治療の実態やロボット手術のニーズ拡大、がんゲノム医療の拠点病院としてなど、新時代のがん治療への県民ニーズが高まっており、県による一層の投資が必要であることを実感しました。またその一方で、医療人材が人手不足に陥ることが予想される2040年問題に向けた課題など、多くの学びを頂きました。国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代。県立がんセンターを拠点とした県内各病院でのがん治療の推進は大事な課題です。



## 故 島村大参議院議員との思い出

突然の訃報に驚き言葉を失う…私も最近そういう事が多くなった気がします。島村大参議院議員の死はまさにそういう出来事でした。だってついこの前事務所へ行って話をしたばかりなのに…。

あれは4年前、「森林環境税創設、神奈川県民の負担増、しかし森林が少ない神奈川県内にはほぼ還元されない仕組み、自民党が法案を提出へ」そんな情報を得た私が、自民党県議団の政調会長として国会議員との交渉にあたった際、窓口になってくれたのが島村大さんでした。本当に真摯に主張を受け止めて下さり、全国の森林族の議員と立ち向かってくれたおかげで、法案は当初のプランを大きく変更。神奈川県などの都市部にも配慮した内容となって自民党から提出され、成立しました。「あれは大きな

仕事だったねえ…」二人顔を合わす度にその話が出ました。

こんなにまじめで、人柄がよくて、真剣に仕事に取り組んでくれる国会議員を私は他に知りません。大さん、どうか安らかに。

